



病児保育協議会

NEWS

一般社団法人 全国病児保育協議会ホームページ <https://www.byoujihoiku.net/>

第109号

2022年(令和4年)1月1日

〔発行人〕 会長 大川 洋二  
(大川こども内科クリニック)〔発行〕一般社団法人 全国病児保育協議会事務局  
〒860-8833  
熊本県熊本市南区平成1丁目11番10号 株式会社 愛光社内  
FAX.096-359-7538Afterコロナ時代の  
持続可能な病児保育

一般社団法人 全国病児保育協議会 会長 大川 洋二

大川こども内科クリニック OCFC 病児保育室うさぎのママ



皆様、あけましておめでとうございます。今年は寅年です。寅年の冬は寒さが厳しいけれども、厳しければ厳しいだけ、春から夏にかけて飛躍が期待される年です。昨年はどうとう1年中、コロナ対策に明け暮れた年でした。秋から急速にCOVID-19は日本中から消退していきましたが、今年はどうなるのでしょうか。この原稿が出るときは第6波でしょうか。いずれにせよ私たちは叡智を集結して、忍耐強く、克服していきましょう。コロナ後の発展した日本、世界を見たいものです。

ソーシャルディスタンスは感染予防に有効でした。大人となった私たちは、身体の接触が無くともお互いに敬意を払い、人との交際を行い、成長することが可能です。しかし乳児は、幼児は、児童は肌の接触が時に成長に必要であり、愛着形成や発達が可能となります。正しく感染症を理解して、感染に留意しながら病児の保育に勤めることが必要です。早く、心おきなく、病児を抱っこして、手をつないで病児保育を行いたいものです。病児とのソーシャルディスタンスが限りなくゼロに近づくことを願っています。

新型コロナウイルスの流行によって私たちは感染症が昔と変わりなく人類の脅威であることを知らされました。そしてそれが大きく社会を変えることも知らされました。変わることはなぜ起こるのでしょうか。それは私たちが、そして社会が持続するためです。その変革に合った生き物だけが存続を許されます。恐竜時代の生き物が死滅したのも変わることができなかったためです。社会は持続可能な発展を必要としております。2015年に国連サミットでSDGs (Sustainable Development Goals) として17の目標をかかげています。そのどれをとっても、その達成には子どもたちの成長が必要です。病児保育はその子どもたちの成長を担っています。子ども達をあらゆる病的な状態から救うことがこれからの病児保育の在り方です。いまこそ病児保育は変わらなければなりません。

今までの病児保育は病気の子どものみが対象でした。

しかし、この子どもの病気の定義さえありません。病後児保育では「子どもの病気が回復期であって」という表現があることから回復期がある病気らしい(すなわち治る病気、あるいは罹る病気)と推理されますが、感染症だけなのか、小児がんは含まれるのか、外傷はどうか、神経発達症はどうか、規定されていません。自治体によって解釈に差があることになります。でもこの解釈をしなくてもよい方法があります。それは……?

私は病児保育を子どもが病気になった時に利用する施設、制度との定義は変えるほうがすっきりすると思います。子どもを取り巻くすべての病的状態を対象にすることがAfterコロナ時代にふさわしいと考えます。すなわち子どもが病気の時だけではなく、保護者の疾病や悩み、育児不安、子どもが生活環境や保育環境に馴染めない神経発達症の場合、医療的ケアを必要としている時、子どもの貧困、自然災害で保育環境がないとき、戦争といったあらゆる不利益を与える状況にある児童を保育し、成長に最適な環境を提供する施設として認識し直すことが必要です。このことによって初めて小児は身体的、精神的さらに社会的に守られることとなります。

今後少子化社会がさらに進んでも、いや進めば進むほど病児保育は社会のセーフティネットとして存続することとなります。そして少子化問題を解決して、日本の国土に合った人口を維持することが可能となります。コンパクトな便利で健康的な社会の実現です。

さて昨年度は1年に2回の全国病児保育研究大会がネット配信にて行われました。COVID-19の流行下であって、研修機会は場合によっては増えたようです。一方では対面の良さもあります。今年の千葉大会では皆様にお会いできるのでしょうか。今年こそは皆様に直接お会いしたいものです。そしてAfterコロナ時代に一回り成長した皆様の逞しい姿にお目にかかりたいと思います。

飛躍せよ病児保育!

## 各種委員会の抱負

## 機関誌編集委員会

## 書くことに親しもう!!

委員長 羽根 靖之

医療法人 童心会 よいこ病児保育室



私ども機関誌編集委員会では、ここのところ、機関誌発行10周年や、協議会発足30周年など記念号としての特集が続き、また、研究大会がWEBで開催されたこともあり、研究大会特集号的な内容が多かったと思っています。それはそれとして、本来の機関誌としては、会員の皆様からの投稿論文をもっと掲載していきたいと思っています。そこで、千葉大会では何らかの一般会員向けの投稿企画を考えたいと思っています。一つは、論文を書くことのベシクな知識を小冊子にして配布し、会員がもっと

投稿しやすいようにできないかと検討します。もう一つは、千葉大会のテーマ「未来をつくる子育て支援—こどもに寄り添う新しい病児保育を考えよう—」に合わせて、「病児保育における新しいアイデア」という寄稿文を募集し、掲載したいと思います。さらには、大会終了後の機関誌第14号への掲載になりますが、「千葉大会から学んだ事」という感想文も募集して掲載できればと考えています。まずは、書くことに親しんでください。



## 資格認定委員会

2022年 病児保育専門士は  
今年盛りだくさん!!

委員長 永野 和子

みるく病児保育センター



コロナ禍にあつて、県境を越えての移動や大人数が一堂に会する催しへの参加に対する不安がぬぐいきれない中、2021年は東京で病児保育専門士講習会を開催し28名の参加がありました。

今年、2022年は大阪で10月と11月に講習会を実施する予定です。ぜひ、ふるってご参加ください。日程等についてはゴールデンウィーク明けをめどに各施設に郵送いたしますので、楽しみにお待ちください。

そして、もうひとつ、研究大会時に開催していました病児保育専門士だけが参加できるワークショップ「ス

ペシャルインタレスト」を今年は再開いたします。

講師に前日本保育保健協議会会長の三浦義孝先生をお迎えし、「今どきの子どもたちというより大人たちも-園・地域の子どもたちとともに」(仮)と題して講演いただいた後、参加者みんなで「今どきの…」について考えてみたいと思っています。2大会ぶりの「スペシャルインタレスト」をお楽しみに!

また、2022年が専門士資格の更新時期に当たっている方(コロナ特別猶予期間の方も含む)は、3月1日から5月31日までが更新期間です。お忘れなきようお手続きをお願いいたします。

## 研修委員会

### 第32回全国大会に向けて 研修委員会からのご案内

委員長 横井 透

横井小児科内科医院病児保育室「こりすの里」



研修委員会の目的は、全国の病児保育室において安全で質の高い保育看護を実践できるように、スタッフの皆様の研修のお手伝いをすることです。全国大会では基礎研修とステップアップ研修を研修委員会が担当しています。

第32回全国病児保育研究大会inちばでは、基礎研修(小児医学、保育、看護、保育看護)の講演はオンデマンドで行います。基礎研修はその名の通り、病児保育室で保育看護を行っていく上で基本的に研修すべき事項を理解して頂くために行っており、病児保育の現場に入られて経験を積みながら研修を行っているスタッフが対象です。まず、基礎研修テキストをお読みいただき、その解説として基礎研修の講演を聴講されると良いでしょう。オンデマンドで何度でも見て頂いてきちんと研修して頂けると思います。また、オンデマンドにすることで、学会の貴重な他のプログラムと重なってしまうことがなくなります。基礎研修が必要な方々も学会を楽し

んでいただけるようになりました。

ステップアップ研修では、皆様と対面で事例検討会を行っていきたいと考えています。第30回大会、第31回大会は残念ながらオンラインでの大会となってしまう、ステップアップ研修の事例検討会も画面を通して見て頂くだけになってしまいました。第32回大会では会場で行われる予定です。ぜひ皆様と同じ場に集い、提示された症例について皆様のご意見を伺いながら、病児保育室における保育看護のあり方を考えていきたいと思います。そこにご参加いただいた皆様には、今までと違った視点から子ども達を見ることができたり、新しい考え方を得ることができたりすることを期待しています。経験の少ないスタッフから病児保育専門士の方々まで、皆様に有意義だったと感じられる研修を行うべく、研修委員会委員一同で企画していきたいと考えています。会場で皆様とお会いすることを楽しみにしています。



## 倫理委員会

### — 研究に必要な “倫理的配慮”を身につける —

委員長 木野 稔

大阪旭こども病院 アリス病児保育室



第32回大会ではワークショップを開催します。

倫理委員会 ワークショップ

- 研究に必要な“倫理的配慮”を身につける -

2022年7月18日(月・祝)

『保育や看護は、人を対象とした業務であり、業務実践に則した研究を進めるためには“倫理”を意識することが重要です。倫理ということばは難しく思われますが、研究倫理では研究対象者の人権を擁護することが主となります。『Aちゃんの事例から学ん



だこと」とか、「Bちゃんの保育実践とその評価」、「病児保育を利用する保護者のニーズを知る」など人を対象とした研究では、研究対象者の倫理面への配慮が求められます。「アンケート調査だから倫理はいいよ」といわれる方がいますが、アンケート調査も人を対象とした研究の一つです。」(金城やす子)

第29回から3回にわたり倫理委員会セミナーを開

催しました。第32回の千葉大会では、実際に即した倫理的配慮や倫理審査申請の方法について、誰でもやればできるという成果を目指すワークショップ形式で行います。

職種は問いません、多くの方のご参加をお待ちしています。



## 広報委員会

### 『広報の部屋』でお会いしましょう ～ふり返る100号、見つめる未来～



委員長 藤本 保  
大分こども病院 キッズケアルーム



一堂に会することが憚られたこの2年、『協議会ニュース』や協議会ホームページは会員の皆様をつなぐかけ橋となり得ていましたでしょうか。全国病児保育協議会は、会員の皆様がもっと積極的に協議会サイトにアクセスする機会を持っていただけるように、2021年6月に会員情報更新システムを新たに導入しました。ご自身の情報にアクセスすれば、施設会員も個人会員も面倒な手続きなしにいつでも会員情報を修正・更新することができるだけでなく、会員専用サイトの最新のパスワードもすぐに手に入ります。現在は広報委員会がシステムの窓口を担当していて、少しずつではありますが、会員の皆様の利便性を高める工夫を続けています。

さて、「第32回全国病児保育研究大会inちば」におきましては、ひさしぶりに現地で皆様とお会いできる機会に恵まれそうです。第30回記念大会から延期になっていた『広報の部屋』を再開する時が、ようやく巡ってきました。

『協議会ニュース』は2020年1月に発行100号を

迎えました。『協議会ニュース』が刻んできた時の流れの中には、それぞれの立場と役割で病児保育に携わってきた私達がたしかにいて、そして今、私達は、病児保育をより良くするために信念と情熱を持って、ここに立っています。コロナのみならず病児保育室運営の難局がどれほど立ちのぼるだろうとも、立ち向かうことがどんなに苦悩に満ちうつむく日があろうとも、私達は様々な工夫を凝らしアイデアを分かち合って、究極の育児支援「病児保育」を守るべく、向き合ってきました。『協議会ニュース』の100号を通して協議会の歴史をふり返り、現在に足を踏ん張り、そして未来を見つめる。第32回全国病児保育研究大会inちば『広報の部屋』は、「We Are Here. ～病児保育には社会と未来を変える力がある～」と題して、ニュース創刊号から100号までを展示し供覧いたします。病児保育の今昔を感じていただき、われわれの未来へ思いを馳せていただければと思います。ぜひお立ち寄りください。

## 機関誌への投稿を募集いたします

当協議会が発行する「病児保育研究13号」(2022年7月発行予定)に掲載する投稿論文を募集いたします。

病児保育に関連する「調査と研究」、「実践報告」、「短編」の未発表の論文を対象とします。

投稿規定は、過去の機関誌及び協議会ホームページに掲載されていますので参考にしてください。

また、機関誌13号 投稿原稿締め切りは、2022年3月10日(木)です。

機関紙「病児保育研究」 | 全国病児保育協議会 (byoujihoiku.net)

## 安全対策委員会

### BCPを作成してみませんか？

委員長 米倉 順孝

大名よねくら小児科クリニック ベビートットセンター



自然災害、犯罪被害、新型コロナウイルスのような新興感染症など、個人・組織・地域を突発的に不安定な状態にする出来事を「危機（クライシス）」と呼びます。危機が発生した際に、その影響を最小限にするとともに、いち早く危機状態からの脱出・回復を図ることを危機管理（クライシスマネジメント）と言います。

安全対策委員会では、令和3年8月に「病児保育室の事故防止ガイドライン」を改訂し発行しました。今回の改訂で新しく「病児保育室のクライシスマネジメント」の章を設けて、第30回大会ではその内容をオンデマンドで解説しました。こちらの動画は、今後協議会ホームページでも閲覧できるようにしようと考えています。

その解説のなかに「BCP（Business Continuity Plan）」という言葉が出てきます。Businessという単語が用いられていることからわかると思います

が、もともとは企業が自然災害やテロ攻撃などに遭遇した際に、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための、方法・手段などを取り決めておく計画のことです。まだまだ医療現場や保育現場などでは馴染みの少ない言葉ですが、近年増加する自然災害や新型コロナウイルスの流行によって、注目を集めるようになりました。

改訂版ガイドラインには、自施設でBCPを作成することができるように、ひな形を掲載しておりますので、手始めに作成してみてください。第31回大会では、このBCPについてもう一步理解を深めるとともに、各施設で実践にむけて取り組みやすくなるような内容を企画しています。これを機に、多くの施設でもBCPについて興味を持って頂き、施設内で作成し活用できるようにして頂きたいと考えています。



## 保育園型委員会

### 保育園型だからできる子育て支援を

委員長 西倉 美奈

洋光台中央福澤保育センター 病後児保育室ひまわり



一昨年より昨年にかけて、様々な制限がかかる中の運営となりました。そのような中で、改めて保育の中で譲れないものは何か、我々が大切にしたいものは何かを確認し、職員間で共有する機会にもなったのではないのでしょうか。今は徐々に事態も変わり始め、保育園も病児病後児保育室も工夫をしながら、活動の幅を広げているのではないかと思います。

今年の千葉大会では、保育所に併設された施設であることで、その特色を活かし、更なる子育て支援

に繋げているケースをご紹介します。セミナーテーマは「明日に繋ぐ子育て支援～スモールステップで伝えられること～」です。病児・病後児保育室だけで完結せず、保育園と協働しながら、工夫して取り組んでいる子育て支援の実践を2ケースご紹介します。また北九州大会から取り組んでいる施設紹介動画も2園に紹介して頂きます。この2年ほど、保育園型委員会セミナーはオンデマンド配信となり、皆さんと顔を合わせて言葉を交わす機会がありません

でした。千葉大会では現地開催し、グループディスカッションも取り入れる予定です。全国から皆さんが集い、情報交換をする中で、悩んでいることを解決するヒントも見つかるかもしれません。ぜひたく

さんの方にご参加いただきたいと思います。久しぶりに全国の皆さんと直接繋がり、様々な話を聞かせて頂けることを楽しみにしています。



## 調査研究委員会

### 実績調査って知っていますか？

～全体の中で自分の施設はどうなんだろう～

委員長 荒井 宏治

あらいこどもクリニック / 眼科クリニック病児保育室「きりん」



皆さんは協議会調査研究委員会からの実績調査はどう思っていますか。毎年暮れごろの忙しい時に、施設長の先生から「協議会からこんなアンケート来ているけど、このへんの数字をいれておいてね。」と言われて、印刷されたアンケートのコピーに、今年の春に市に提出した報告書と自施設の預かり児台帳を照らし合わせて手書きで記入していることと思います。これでは何の目的でやらされているのかわからず、めんどくさいですよね。それでも何とか必要項目を書き込んで提出しても、後で自分たちが書いたデータがどのような結果になっているのかをよくわからない人が多いのではないかと思います。「詳しいことは病児保育研究誌に載っているのを読んでください。」と言われても、病児保育研究誌は施設に一冊しか配布されないし、お忙しい業務時間内ではじっくり読むことはできないのではないのでしょうか。

数年前から調査研究委員会は、研究大会の際に開かれる施設長会議の中で15分ほどの時間をいただき、ご参加いただいた施設長の先生のみに前年度の

結果を報告して質問に答えています。しかし施設長全員が出席するわけではありませんし、ましてやその会は現場の皆さんが気軽に入れる感じではないと思います。

調査研究委員会としては、病児保育の主役は保育士の皆さんだと思っています。したがっていつの日か研究大会の際に、厚労省説明などの前の10分程度、前座として協議会加盟施設の現状を皆さんにも向かい合って説明できる場があればいいのと思っています。そして行政のかたの前で皆さんが生声で「小さい子が多くてとても疲れる。」とか「自分たちの給与をあげてほしい。」とか「それでも保護者様からとても感謝されてやりがいを感じている。」と訴えてほしいのです。

今後も少子化やwithコロナの状態が続くだろう中で、病児保育は転換期にあります。皆さまにも病児保育の全体の現状を知っていただき、現場の皆さまからこれからの病児保育が子どもたちの成長や保護者様の子育て支援に貢献できるアイデアや発掘の方法をいっしょに考えていきたいと思います。

#### 最近10年間の実績調査のまとめ

| 年度      | 2011    | 2012    | 2013    | 2014    | 2015    | 2016    | 2017    | 2018    | 2019    | 2020   |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| 加盟施設数   | 484     | 467     | 533     | 559     | 594     | 630     | 628     | 683     | 758     | 758    |
| 回答数     | 305     | 308     | 389     | 424     | 404     | 451     | 437     | 485     | 506     | 506    |
| 回収率 (%) | 63      | 66      | 73      | 76      | 68      | 72      | 70      | 71      | 67      | 67     |
| 総利用人数   | 222,896 | 226,025 | 277,405 | 310,888 | 310,343 | 337,192 | 356,652 | 360,478 | 361,252 | 96,549 |
| 平均利用人数  | 731     | 734     | 696     | 705     | 761     | 739     | 812     | 738     | 714     | 191    |

但し2020年度は12月まで

**実績調査が1月1日から実施中です。**

WEB回答は、<http://kanri.jp/B-HOIKU/2020/>です。

**1月31日が回答〆切**です。ご協力をよろしくお願いいたします。





## 千葉県支部より

第12回全国病児保育協議会千葉県支部研修会を、令和4年2月13日(日)午後1時より幕張メッセ国際会議場304にて開催します。まず支部長の私から、子どもたちの皮疹から何を考え、何がわかるのかをお話させていただきます。そして、「お母さんがもっと元気になる乳児健診 健診を楽しくすすめるエビデンス&テクニック」という著書でも有名な、母乳栄養の伝道師でもある昭和大学の水野克己先生より「お母さんを元気にする育児支援」というお話を伺

います。一般演題、スタッフ交流会も予定しています。

また、千葉県では令和4年7月17,18日に第32回全国病児保育研究大会を同じ会場で開催します。全国から多くの方にご参加いただけるよう準備を進めております。



支部長 佐藤 好範  
さとう小児科医院 パンビーノ

<http://web.apollon.nta.co.jp/hoiku2022/>

## 岐阜県支部より

岐阜県では毎年7月と10月の2回開催しています。令和3年はzoomで10月のみの開催でした。一般演題では食べず嫌いの子どもの食べさせ方、新型コロナウイルス感染による緊急事態宣言発令中の病児保育の利用についてのアンケート調査、ミニレクチャーでは急性胃腸炎の対応、特別講演は発達障害

の治療でした。引き続き行われた新型コロナウイルス感染についての討論では、運営方法の異なる施設の対応の紹介と話し合いができました。本年も7月と10月に開催予定です。

支部長 福富 悌  
福富医院 すずらん病児保育園

## 山梨県支部より

山梨県支部での研修会も早7回を経て、令和4年には第8回となります。

病児保育を運営している施設を見学しながら、病児保育施設又は施設の近郊で研修会を開催する形式で毎回50名を超える参加者でいっぱいになります。昨年・今年はzoom開催となり、恒例のグループワークが存分に開催できないさみしさがありました。お互いを励ましながら学びを深める良い時間になっています。

令和4年は8月20日土曜日の午後北杜市の病児保育施設で開催予定です。

研修はもちろん、グループワークや施設長会議等、病児保育に関する知識や思いが増えるひと時です。これからも支部の施設長の方々と励ましあいながら研修会を継続していきたいです。

支部長 宮本 直彦  
げんきキッズクリニック 病児保育室ドリーム

## 大阪府支部より

大阪支部では例年支部総会に併せて、関西地区合同研修会を開催しています。令和元年度はコロナ禍で開催中止となりましたが、令和2年度は令和3年2月27日(土)にZoomを利用してウェブ開催しました。研修会としては『「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン(2019年改訂版)」を読む』というテーマで、大阪医科大学(現 大阪医科薬科大学)

小児科学教室 助教の大関ゆか先生にご講演いただきました。今年度は令和4年3月に対面式の総会・研修会を開催できるよう準備中です。開催概要が決まりましたら、協議会メールマガジンでお知らせしたいと考えております。

支部長 川崎 康寛  
川崎こどもクリニック 病児保育室リトルスター

# 「第32回全国病児保育研究大会inちば」からのご案内

第32回全国病児保育研究大会inちば 会頭 佐藤 里美

さとう小児科医院 病児保育室バンビーノ

【大会テーマ】 未来をつくる子育て支援

ー子どもに寄り添う新しい病児保育を考えようー

【会 期】 令和4年(2022年)7月17日(日)、18日(月・祝)

【会 場】 幕張メッセ 国際会議場

【参加案内発送】 令和4年(2022年)1月中旬



【事前参加登録期間】

令和4年(2022年)2月15日(火)正午～6月3日(金)正午

※定員制プログラム、懇親会は、事前参加登録を行った方のみお申込みいただけます。



【一般演題受付期間】

令和4年(2022年)2月15日(火)正午～3月31日(木)正午

※大会ホームページの「演題登録」からお申込みください。

上記ご案内は2022年1月初旬での予定です。  
今後変更の可能性もありますので、最新情報はホームページをご確認ください。

**大会の開催は、感染対策に万全を期して行います。**

感染拡大状況によっては、  
コロナワクチン接種済み証明書の提示をお願いする場合があります。  
ご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



ホームページアドレス  
<http://web.apollon.nta.co.jp/hoiku2022/>

## 全国病児保育協議会ホームページ内の検索ができるようになりました！

ワード検索でホームページ内の  
調べたい情報を探ことができます。  
ぜひご活用ください！



## 編集後記

いつもですと新年号は協議会役員や委員会の新年抱負を掲載しますが、今年は趣向を変え、ようやく現地開催を望めそうな第32回研究大会 in ちばに向けた各委員会の企画紹介としてみました。併せて各支部からの2022年トピックも寄せられています。寅年の2022年、病児保育を盛り上げていきましょう。

広報委員会 委員長 藤本 保

協議会ニュースに関するお問い合わせ先

一般社団法人 全国病児保育協議会 広報委員会

担当：藤本 保

〒870-0943 大分市大字片島83-7

大分こども病院

FAX.097-568-2970

E-mail: byouji@oita-kodomo.jp